

輸出事業計画

※申請者名：宮崎県漁業協同組合連合会、品目：ブリ・サバ

1. 輸出における現状と課題

(1) ブリ輸出

需要の高いアメリカ向け冷凍ブリフィレの輸出後発組として展示会等を活用した知名度アップ等の活動を進めつつ販路拡大を進めているが、ブリフィレ(冷凍)の品質に「水たれ」が発生する課題が生じており、製造企業における品質管理の徹底を進める必要ができた。経済成長の進むアジア向けにも冷凍ブリフィレの輸出拡大を進めるため、輸出向け展示会等を活用した販路拡大活動を展開している。

(2) サバ輸出

それまで国内養殖向け餌として出荷している冷凍サバをサイズ別に選別することで、アジア向け食用として輸出を開始した。サバの輸出向け冷凍品の処理能力(脱パン機)が低く、作業効率向上、製造コスト低下が課題となっている。

2. 輸出事業計画の取組内容

(1) ブリ輸出

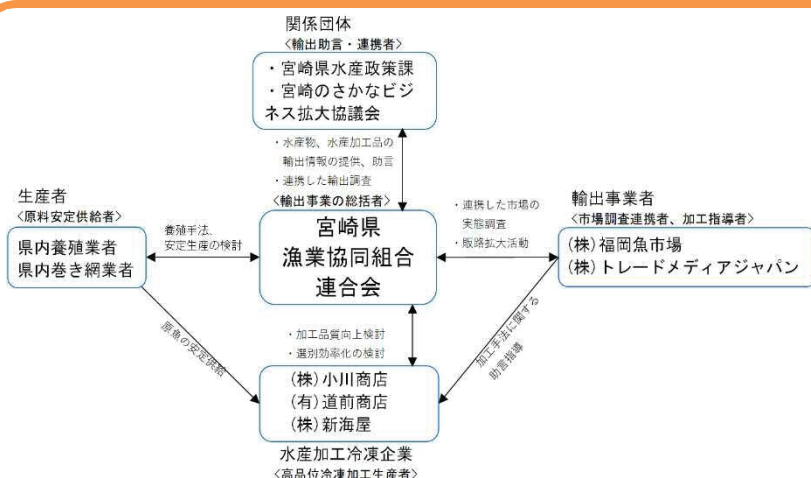
ブリフィレ加工時の品質改善を製造業者と連携して解決するとともに、販路先として、コロナ禍により需要が減っている米国より経済成長が続き、コロナ禍でありながら、少しずつ飲食店向け需要が回復しつつある、東南アジアへの市場拡大を図ることとしている。そのため、輸出向け展示会に出展するほか、国内の輸出バイヤーを戸別訪問するなどの販路拡大活動に取り組んでいく。

(2) サバ輸出

食用サバの輸出先として期待されるベトナムをはじめとする東南アジア諸国には、安価な中国産サバも流入しており、市場の奪い合いが始まっており、価格勝負ではなく、品質(サイズ別に選別された冷凍サバ商品)をアピールすることとしており、サイズ選別のための設備の充実を図る必要がある。

加えて、ブリ輸出と同様に輸出向け展示会において品質をアピールする販路拡大活動を展開する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



宮崎県漁業協同組合連合会が当該体制の中核となり、宮崎のさかなビジネス拡大協議会と連携し、輸出先国のニーズ、課題等の情報をもとに、県内養殖業者等とは加工用ブリ及び天然サバの安定供給体制に向けた検討を、加工企業と輸出事業者及び本会とは加工品質の向上を図り、取組内容と実施スケジュールを更新するなど、PDCAサイクルを回しながら推進する。

4. 輸出目標額

展示会への出展等の対象国への販路拡大活動を展開する事で、下表のとりの輸出売上げ目標を目指す。コロナ禍の影響を踏まえ、アジアへの輸出拡大を目指すため、関係機関、組織と緊密な連携を図り、当該目標の達成を目指す。

「ブリフィレ等冷凍品輸出目標」

	現状（平成31年3月期）	目標（令和5年3月期）
輸出額（千円）	27,000	365,000
輸出量（t）	15	208
輸出先	米国	米国、台湾、タイ、香港、シンガポール、マレーシア
原魚量（t）	30	520

「サバ冷凍品輸出目標」

	現状（平成31年3月期）	目標（令和5年3月期）
輸出額（千円）	125,187	160,000
輸出量（t）	1,430	1,778
輸出先	東南アジア（ベトナム、タイ）など	東南アジア（ベトナム、タイ）など
原魚量（t）	1,430	1,778